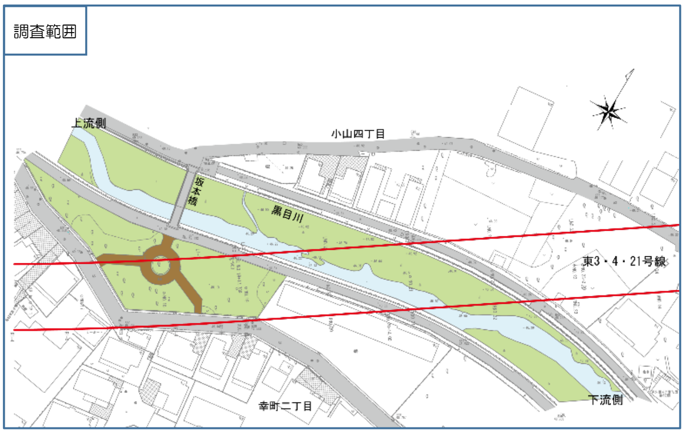
東村山都市計画道路３・４・21 号線整備事業に伴い
黒目川で自然環境調査を実施しました

東村山都市計画道路３・４・21 号線整備事業に伴い、「東京における自然の保護と回復に関する条例」第 47 条の規定に基づき東京都環境局と協議を進める中で、橋梁工事による自然環境への影響を適切に把握し、希少生物に対して必要な保全対策を検討していくため、都市計画道路と黒目川が交差する付近で令和２年５月に自然環境調査を実施しました。



【植物調査（植物相）】

調査方法　調査範囲を踏査し、生育する全ての植物を記録

調査結果　35 科 69 種類の植物を確認

希少種　マツバラン（環境省レッドリストの NT（準絶滅危惧）に該当）を確認

※　希少種保護の観点から生息地は非公表

マツバランについて

マツバランは、本州中部から以南に分布しており、樹上や岩の上に着生し、樹上にたまった腐植に根を広げて枝を立てたり、岩の割れ目から枝を枝垂れさせたりといった姿で生育するマツバラン科のシダ植物です。

東京都環境局との協議により、確認されたマツバランは、橋梁工事により生育が阻害されないため、移植等の代替措置を講じないこととなっております。

番号	科名	種名
1	マツバラン科	マツバラン
2	トクサ科	スギナ
3	ウラボシ科	ノキシノブ
4	ヤナギ科	アカメヤナギ
5	クワ科	カナムグラ
6		ヤマグワ
7	イラクサ科	ヤブマオ
8	タデ科	ミゾソバ
9		アレチギシギシ
10		ナガバギシギシ
11	ナデシコ科	コハコベ
12	キンポウゲ科	ケキツネノボタン
13	ケシ科	ナガミヒナゲシ
14	アブラナ科	セイヨウカラシナ
15		オランダガラシ
16	バラ科	ヤブヘビイチゴ
17		モモ
18	マメ科	クズ
19		ムラサキツメクサ
20		シロツメクサ
21		ヤハズエンドウ
22		スズメノエンドウ
23	カタバミ科	イモカタバミ
24		カタバミ
25	フウロソウ科	アメリカフウロ
26	ブドウ科	ノブドウ
27		ヤブガラシ
28		ツタ
29	アカバナ科	ユウゲショウ
30	セリ科	セリ
31		オヤブジラミ
32	サクラソウ科	コナスビ
33	キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ
34	アカネ科	ヤエムグラ
35	ヒルガオ科	コヒルガオ

番号	科名	種名
36	クマツヅラ科	シチヘンゲ
37	アワゴケ科	イケノミズハコベ
38	シソ科	マルバハッカ
39		ツルニガクサ
40	ゴマノハグサ科	オオカワヂシャ
41		タチイヌノフグリ
42	ハマウツボ科	ヤセウツボ
43	オオバコ科	ヘラオオバコ
44	キク科	ヨモギ
45		ハハコグサ
46		ウラジロチチコグサ
47		キクイモ
48		セイタカアワダチソウ
49		ノゲシ
50		ヒメジョオン
51		オニタビラコ
52	トチカガミ科	オオカナダモ
53	ユリ科	ノビル
54	ヤマノイモ科	ヤマノイモ
55		オニドコロ
56	ツユクサ科	ツユクサ
57	イネ科	カモジグサ
58		カラスムギ
59		コバンソウ
60		イヌムギ
61		ネズミムギ
62		オギ
63		クサヨシ
64		ツルヨシ
65		ミゾイチゴツナギ
66		ナガハグサ
67		オオスズメノカタビラ
68	カヤツリグサ科	マスクサ
69		メリケンガヤツリ
計	35科	69種

【魚類調査】

調査方法　タモ網やサデ網等を用いた捕獲による調査

調査結果　３科４種類の魚類を確認

希少種　ヒガシシマドジョウ（東京都レッドデータブックのVU（絶滅危惧Ⅱ類）に該当）を確認

※　希少種保護の観点から生息地は非公表

番号	科名	種名
1	コイ科	カワムツ
2		タモロコ
3	ドジョウ科	ヒガシシマドジョウ
4	ハゼ科	カワヨシノボリ

ヒガシシマドジョウ　※写真は現地で確認された個体ではありません。

ヒガシシマドジョウについて

ヒガシシマドジョウは、本州の中部地方以東に広く分布しており、河川の中・下流域に多く生息し、きれいな砂底を生息環境としているドジョウ科の魚です。体の側面には点列があるなどの特徴があります。

希少種（ヒガシシマドジョウ）の保全について

東京都環境局との協議により、橋梁工事実施の前に現地調査を行い、ヒガシシマドジョウを確認した場合に、保全措置として類似移動候補地へ移動します。

※　希少種保護の観点から類似移動候補地は非公表

手順	作業内容
現地調査	タモ網やサデ網等を使用し、計画橋梁渡河部付近を春季または秋季に調査します。
捕獲後	ヒガシシマドジョウを捕獲した場合には、水槽等にエアレーションを施した状態で管理します。 使用する水は現場の水とし、水温の変化に注意して日陰にて管理します。捕獲から移動までは、あまり時間をかけないで行います。
移動時	水温に大きな変化がないことを確認して、対象個体をゆっくり放流します。 水温に大きな差が生じている場合は、ビニール袋等に移動元の水と対象魚を移して、移動先に浮かべて１時間程度放置し、水温の差が少ないことを確認し放流します。